

平成30年度 学校評価アンケート【生徒】の分析

肯定的評価・・・a「よくあてはまる」とb「ややあてはまる」を合わせたもの

否定的評価・・・c「あまりあてはまらない」とd「あてはまらない」を合わせたもの

◎肯定的評価が多く（今年度80%以上）、昨年度比で肯定的評価が10%以上増えた項目
該当項目なし 〈昨年度〉該当項目なし

○肯定的評価は多くない（今年度80%未満）が、昨年度比で肯定的評価が10%以上増えた項目
該当項目なし 〈昨年度〉該当項目なし

●肯定的評価が昨年度比で10%以上減った項目
該当項目なし 〈昨年度〉該当項目なし

●肯定的評価が少なく（今年度60%未満）、肯定的評価の増加も少ない（10%未満）項目
番号41「学習してわからないところをよく質問に行く」 36.7 ←39.5
番号43「読書に励み視野を広めようとしている」 44.0 ←44.6
〈昨年度〉
番号41「学習してわからないところをよく質問に行く」 39.5 ←37.9
番号43「読書に励み視野を広めようとしている」 44.6 ←46.8

[まとめ]

- ① 回収率は96.0%、19項目中13項目が80%以上の高評価を得ており、おおむね本校の教育活動が生徒の実態を踏まえて行われていること、生徒がそれを受け止めていることがうかがえる。
- ② 番号1「校訓を理解している」番号11「快適な学校の環境を築く施設の整備」の二つは昨年度高評価（80%以上）であったが、今年度下がった項目である。校訓に触れ理解する機会を工夫する必要がある。また、快適な学校環境については、夏の暑さが今年度特に厳しかったことの影響があると考えられる。
- ③ 番号33「家庭で学校の話をする」番号42「ロングホームルームの意義」の二つは、高評価ではないが、肯定的評価が微増している。更なる工夫、改善が望まれる。
- ④ 番号41「学習してわからないところをよく質問に行く」番号43「読書に励み視野を広めようとしている」の二つは、引き続き低評価である。
学習への意欲や主体性を育てる手立てが必要である。また、読書については学習センター（学校図書室）を中心に読書を推進する企画を実施するなど様々な取組みを進めているが、今後とも継続していくことが求められる。
- ⑤ 番号12「いじめ防止への丁寧な指導を行っている」番号13「先生は体罰を行っていない」については、肯定的評価が100%になるよう引き続き努める必要がある。
- ⑥ 記述していただいた意見については、教職員が適切に状況を把握して課題の共有を行い、その改善に努めています。